

(2) 野菜

ナス

<露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (壇壊土、砂 壊土)	520 ～ 600	6,000	基肥：定植2週間前	22	27	18	(牛ふん堆 肥2,000) 基準：4 上限：4	石灰 200	追肥は全分量を7～8回に分けて、10～1 2日間隔で行う。1回の施用量は窒素成 分で3～4kg/10aとする。	
			追肥：-----	24	18	11				
			合 計	46	45	29				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
ア マルチ栽培とする。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 ウ 局所施肥法(液肥土壌灌注等)を行う。							定植1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用する。			

<トンネル栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (壇壊土、 砂壊土)	520 ～ 600	7,000	基肥：定植2週間前	22	27	18	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：2	石灰 200	追肥は全分量を8～9回に分けて、10～1 2日間隔で行う。1回の施用量は窒素成 分で3～4kg/10aとする。	
			追肥：-----	27	20	13				
			合 計	49	47	31				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
ア マルチ栽培とする。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する ウ 局所施肥法(液肥土壌灌注等)を行う。							定植1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用する。			

トマト

<ハウス夏秋栽培(2月播種)>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壊土、壇壊 土)	2,000	10,000 ～ 12,000	基肥：定植2週間前	15～20	20～25	15～20	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 200	・緩効性肥料を使用し11月上旬まで長期 収穫する場合は基肥量を2～3割増やし、 草勢に合わせて追肥回数も増やす。 ・接ぎ木苗を定植する場合、基肥を2～3 割減肥する。	
			追肥：第3花房開花時以降	15～17	11～13	15～17				
			合 計	30～37	31～38	30～37				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
ア 土壌をpHを5.5～6.5に矯正する。 イ 基肥は緩効性肥料又は有機質肥料を主体とし、深層施用あるいは溝施用する。 ウ 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して前作の残肥を考慮し適正な量を決める。 エ 第1回目の追肥は、第3花房開花時に行い、以後少量ずつ、間隔を短く、回数を多く 施用する。(N成分で1kg/回) オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。							堆肥を施用する際には、完熟堆肥を用い、ほ場全面にムラ 無く、均一に散布する。			

<ハウス夏秋栽培(4月播種)>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壊土、壇壊 土)	2,000	8,000 ～ 10,000	基肥：定植2週間前	10～12	25	10～12	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 200		
			追肥：第3花房開花時以降	20～25	7～10	20～25				
			合 計	30～37	32～35	30～37				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
ア 土壌をpHを5.5～6.5に矯正する。 イ 基肥は緩効性肥料又は有機質肥料を主体とし、深層施用あるいは溝施用する。 ウ 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して前作の残肥を考慮し適正な量を決める。 エ 第1回目の追肥は第3花房開花時に行い、以後少量ずつ間隔を短く、回数を多く施用す る。(N成分で1kg/回) オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。							堆肥を施用する際には、完熟堆肥を用い、ほ場全面にムラ 無く、均一に散布する。			

<半促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壊土、壇壊 土)	2,000	8,000 ～ 10,000	基肥：定植2週間前	10～15	18～25	10～12	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 200		
			追肥：第3花房開花時以降	20～25	7～10	20～25				
			合 計	30～40	25～35	30～37				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
ア 土壌をpHを5.5～6.5に矯正する。 イ 基肥は緩効性肥料又は有機質肥料を主体とし、深層施用あるいは溝施用する。 ウ 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して前作の残肥を考慮し適正な量を決める。 エ 第1回目の追肥は第3花房開花時に行い、以後少量ずつ間隔を短く、回数を多く施用す る。(N成分で1kg/回) オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。 カ リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。							堆肥を施用する際には、完熟堆肥を用い、ほ場全面にムラ 無く、均一に散布する。			

<促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土、埴壤土)	2,000	12,000	基肥：定植2週間前 追肥：第3花房開花時以 降	15 19~25	18~25 7~10	15 19~25	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 200	
環境保全型施肥のポイント			合計	34~40	25~35	34~40	<堆肥等施用のポイント> 堆肥を施用する際には、完熟堆肥を用い、ほ場全面にムラ 無く、均一に散布する。		
<p>ア 土壌をpHを5.5~6.5に矯正する。</p> <p>イ 基肥は緩効性肥料又は有機質肥料を主体とし、深層施用あるいは溝施用する。</p> <p>ウ 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して前作の残肥を考慮し適正な量を決める。</p> <p>エ 第1回目の追肥は第3花房開花時に行い、以後少量ずつ間隔を短く、回数を多く施用する。 (N成分で1kg/回)</p> <p>オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p> <p>カ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。</p>									

ミニトマト

<ハウス夏秋栽培>

対象地域 (土壌)	栽培 様式	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、壤土)	1,350 ~ 1,800	5,000 ~ 7,000	基肥：定植2週間前 追肥：第2~3花房開花 以降	12 23~28	20 10~12	16 19~24	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100~200	定植時期は4月上旬、収穫期間は6月 月上旬~11月中旬を想定している。
環境保全型施肥のポイント			合計	35~40	30~32	35~40	<堆肥等施用のポイント> ア 長期どりとなるため、有機物を施用し土づくりに努める。 イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分を考慮して施用 量を調整する。		
<p>ア 土壌pHは5.5~6.5に矯正する。</p> <p>イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。リン酸資材は連作ほ場で過剰施用に注 意する。</p> <p>ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を中心とし、定植2週間前までに施用する。 この場合、初期生育時の肥効は控えめにする。</p> <p>エ 2~3段目開花以降は速効性の肥料を中心に、こまめな追肥を行うが、施肥量は1回当 たり、灌水を兼ねて液肥等を窒素成分で1~2kg/10a程度とする(土壌条件や草勢に応 じて変える)。</p> <p>オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p>									

<促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、壤土)	1,500 (二本 仕立 て)	8,000	基肥：定植2週間前 追肥：第2~3花房開花 以降	12 23~28	22 8~10	16 19~24	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100~200	定植時期は9月上旬、収穫期間は10月 上旬~6月中旬を想定している。
環境保全型施肥のポイント			合計	35~40	30~32	35~40	<堆肥等施用のポイント> ア 長期どりとなるため、有機物を施用し土づくりに努める。 イ 家畜ふん堆肥を施用する場合は、有効成分を考慮して施用 量を調整する。		
<p>ア 土壌pHは5.5~6.5に矯正する。</p> <p>イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。リン酸資材は連作ほ場で過剰施用に注 意する。</p> <p>ウ 基肥は有機質肥料または緩効性肥料を中心とし、定植2週間前までに施用する。 この場合、初期生育時の肥効は控えめにする。</p> <p>エ 2~3段目開花以降は速効性の肥料を中心に、こまめな追肥を行うが、施肥量は1回当 たり、灌水を兼ねて液肥等を窒素成分で1~2kg/10a程度とする(土壌条件や草勢に応 じて変える)。</p> <p>オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p>									

ピーマン

<露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、砂 壤土)	1,100	5,000	基肥：定植3週間前 追肥：7~8月	22 10~13	34 7~9	15 10~13	(牛ふん堆 肥2,000) 基準：4 上限：4	石灰 100~200	基肥を局所施肥(畦幅施用)とする。
環境保全型施肥のポイント			合計	32~35	41~43	25~28	<堆肥等施用のポイント> 定植1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用。		
<p>ア マルチ栽培とする。</p> <p>イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。</p> <p>ウ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p>									

<トンネル栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤 土、砂 壤土)	1,100	6,000	基肥：定植3週間前 追肥：7~8月	24 10~13	38 7~9	17 10~13	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：2	石灰 100~200	基肥を局所施肥(畦幅施用)とする。
環境保全型施肥のポイント			合計	34~37	45~47	27~30	<堆肥等施用のポイント> 定植1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用。		
<p>ア マルチ栽培とする。</p> <p>イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。</p> <p>ウ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p>									

キュウリ

＜夏秋栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壌土、砂壌土)	700 ～ 900	11,000	基肥：4月	24	36	24	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 150～200	追肥は窒素成分で2kg程度ずつつけて施用する。整枝、摘果、摘葉等適正な栽培管理により草勢低下を防ぐ。
	追肥：6～9月		33	14	33				
	合 計		57	50	57				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施肥量は、土壌診断の結果に基づき、土壌及び堆肥に含まれる量を考慮し、過剰施用を避ける。			雨除け栽培の場合は、堆肥の量を1/2にする。						
イ 肥効調節型肥料や有機質肥料を使用し、局所施肥法を用いる。									
ウ 局所施肥法（液肥灌注等）を行う。									

＜半促成栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壌土、砂壌土)	1,200 ～ 1,500	8,000	基肥：2月	24	15	15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 120	追肥は窒素成分で1～2kg程度ずつつけ、生育を見ながら適宜行い、最盛期には7～8日おきに施用する。整枝、摘果、摘葉等適正な栽培管理により草勢低下を防ぐ。
	追肥：3～6月		16	16	16				
	合 計		40	31	31				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施肥量は、土壌診断の結果に基づき、土壌及び堆肥に含まれる量を考慮し、過剰施用を避ける。									
イ 施肥には、肥効調節型肥料や有機質肥料を使用し、局所施肥法を用いる。									
ウ 局所施肥法（液肥灌注等）を行う。									
エ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。									

＜抑制栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壌土、砂壌土)	1,200 ～ 1,500	6,000	基肥：7月	12	10	10		石灰 100	追肥は、生育を見ながら適宜行い、最盛期には7～8日おきに、窒素成分で2kg/10a程度ずつつけて施用する。
	追肥：8～11月		13	13	13				
	合 計		25	23	23				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施肥には、肥効調節型肥料や有機質肥料を使用するか、局所施肥法を用い、整枝、摘果、摘葉等適正な栽培管理により草勢低下を防ぐ。			前作で施用。						
イ 施肥量は、土壌診断の結果に基づき、土壌及び堆肥に含まれる量を考慮し、過剰施用を避ける。									
ウ 局所施肥法（液肥灌注等）を行う。									
エ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。									

カボチャ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壌土、壤土)	400 ～ 470	3,000 ～ 3,500	基肥：定植前	8～9	13～15	8～10	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 160	子づる2本仕立てとし、畝間3～3.5m、株間70～80cm程度とする。
	追肥：開花前～果実肥大初期	7～8	2～5	5～7					
	合 計	15～17	15～20	13～17					
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 吸肥力が強いので、多肥栽培にするとはげしやすいため、基肥は緩効性肥料や有機質肥料を主体とし、前作や土質により施肥量を加減する。									
イ 施肥は、窒素・リン酸・カリを成分で15kg程度とし、窒素とカリの半量は追肥とする。									
ウ 第1回目の追肥は、開花前～開花始期（中耕除草時）に行い、2回目は、果実肥大始期（果実が卵大）頃に行う。以後は草勢を見ながら、子づる摘心後に畝間に施用する。									

メ ロ ン

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (壤土)	2,000 ～ 2,100	2,000	基肥：定植前	10	15	15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：3	石灰 150	伊達地方など前作がイチゴとなる場合、メロン栽培前に堆肥の施用はしない。
	合 計		10	15	15				
	環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>					
ア 基肥に肥効調節型肥料を用いて栽培をし、ほとんど追肥は使わない。									
イ 定植後の生育が旺盛となると着果が不安定となるので、基肥には緩効性窒素肥料又は有機質肥料を主体に施用する。									
ウ 着果後の草勢が弱い場合は、窒素とカリ肥料をそれぞれ1.0kg/10a程度、1～2回追肥を行う。									
エ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。									

イチゴ

<促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土、殖壤土)	8,000	4,000	基肥：定植前 追肥：草勢により分施 合計	16~19 4~6 20~25	22~26 3~4 25~30	13~14 4~6 17~20	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100	
環境保全型施肥のポイント			<p><堆肥等施用のポイント> 夏のうちに、完熟堆肥をやることで肥沃で排水性のいい土づくりを目指す。</p> <p>ア 土壌pHを5.5~6.0に矯正する。 イ 基肥は、有機質肥料又は緩効性肥料を主体に施用する。 肥料の濃度障害を受けやすいので、多肥を避け、定植2週間前までに基肥を施す。 ウ 追肥は10月下旬以降草勢に応じて液肥、又は緩効性肥料で施用する。 エ 追肥は、窒素成分で1~2kg/10aずつ分けて施用する。低温時の追肥は控える。 オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。 カ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。</p>						

<半促成栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土、殖壤土)	8,000	3,500	基肥：定植前 追肥：収穫期 合計	16~19 3~4 19~23	22~26 3~4 25~30	13~14 2~4 15~18	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：3	石灰 100	
環境保全型施肥のポイント			<p><堆肥等施用のポイント> 夏のうちに、完熟堆肥をやることで肥沃で排水性のいい土づくりを目指す。</p> <p>ア イチゴは、肥料に特に敏感な作物であるため、多肥にならないよう注意し、2週間前までに基肥を施す。 イ 基肥は、有機質肥料又は緩効性肥料を主体に施用する。 ウ 追肥は、窒素成分で1~2kg/10aずつ分けて施用する。低温時の追肥は控える。 エ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。 オ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。</p>						

サヤインゲン

<ハウス栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、壤土)	半促 2,500 ~ 2,800	3,500 半促成+ 抑制 (2,000+ 1,500)	基肥：播種前、定植2週 間前 追肥：開花始期~ 抑制(必要に応じて) 栽培 合計	27 12 51~54	30 10 52~55	16 10 38~41	(牛ふん堆肥500) 基準：1 上限：2	石灰 100~160	・基肥は畦幅施用する。 ・追肥は畦間施用または灌水時同時施用とする。 ・手なしインゲンの場合は4,500~5,000本/10a
環境保全型施肥のポイント			<p><堆肥等施用のポイント> ア 肥料効果の高い堆肥は使用せず、土壌改良効果の高いワラ、モミガラ堆肥等を使用する。 イ 土壌分析を行い、必要量の把握を行う。なお、草勢の調整が困難な場合は、量を減らすか、隔年施用とする。 ウ 堆肥量を基準量より多く入れる場合は基肥量を減肥する。 エ 定植1ヶ月前に全面散布。</p> <p>ア 酸性土壌に弱いため、pHを6.0~6.5に矯正する。 イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。特に抑制栽培については、半促成栽培終了後に土壌分析を行い、残存肥料に応じて適正量を施肥する。 ウ マルチ栽培とする。 エ 基肥は緩効性肥料又は有機質肥料を中心とし、開花始期から2週間間隔で窒素成分量2kg/10aの追肥を行う。ハウス栽培は側枝の伸びが良好のため、草勢を見ながら適宜行う。 オ 局所施肥法(液肥灌注または液肥灌注等)を行う。</p>						

<露地栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、壤土)	1,800	1,500	基肥：5月下旬 追肥：6月下旬~ 合計	18~23 7~12 25~35	22 12 34	14 12 26	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100~160	生育初期の茎葉の充実がポイント
環境保全型施肥のポイント			<p><堆肥等施用のポイント> ア 肥料効果の高い堆肥は使用せず、土壌改良効果の高いワラ、モミガラ堆肥等を使用する。 イ 土壌分析を行い、必要量の把握を行う。なお、樹勢の調整が困難な場合は、量を減らすか、隔年施用とする。 ウ 堆肥量を基準量より多く入れる場合は基肥量を減肥する。 エ 定植1ヶ月前に全面散布。</p> <p>ア 酸性土壌に弱いため、pHを6.0~6.5に矯正する。 イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。 ウ 基肥は肥効調節型肥料又は有機質肥料を中心とする。 エ 追肥は開花始期から2週間間隔で窒素成分量2kg/10aの追肥を行う。</p>						

サヤエンドウ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (壤土)	2,800	1,000	基肥：播種前 追肥：3月以降 合計	9~11 6~9 15~20	19~22 2 21~24	8~10 6~9 14~19	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：	石灰120	基本的にマメ科は連作をしない。
環境保全型施肥のポイント			<p><堆肥等施用のポイント> ア 堆肥を施用する場合は、1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用し、ほ場全体にムラ無く、均一に散布する。 イ 過剰な施用は、発芽不良等の生育障害を引き起こすため、土壌診断に基づき施肥量を調節する。</p> <p>ア 土壌pH6.0~6.5を目標に苦土石灰等を施肥する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を用いる。 ウ 水田転換畑や客土畑、連作畑では基肥を20%程度増やす。 エ 花芽分化前、花芽分化期の追肥効果が高いため、3月中旬~下旬の追肥が遅れないようにする。その時軽く土寄せを行う。 オ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。</p>						

スナップエンドウ

< 秋まき >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土・植 壤土)	2,800	1,200	基肥：定植前	8	15	8	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2	石灰 120	直立ネット栽培の場合
			追肥：春期	9	3	9			
			合 計	17	18	17			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。 イ 酸性土壌を嫌うため、土壌pH6.5～7.0を目標に苦土石灰等を施用する。 ウ 追肥には速効性肥料を用い、3回程度に分けて施肥する。 エ 連作は避け、他作物と輪作する。			ア 堆肥を施用する場合は、1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用し、ほ場全体にムラ無く、均一に散布する。 イ 過剰な施用は、発芽不良等の生育障害を引き起こすため、土壌診断に基づき施肥量を調節する。						

グリーンピース

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (壤土)	2,800	2,000	基肥：播種前	16	13	19	(牛ふん堆 肥1,500) 基準：3 上限：	石灰160	基本的にマメ科は連作をしない。
			追肥：3月以降	24	24	24			
			合 計	40	37	43			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pH6.0～6.5を目標に苦土石灰等を施肥する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を用いる。 ウ 追肥は3月上旬～5月上旬頃まで3回程度行う。 エ 局所施肥法(液肥灌注等)を行う。			ア 堆肥を施用する場合は、1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用し、ほ場全体にムラ無く、均一に散布する。 イ 過剰な施用は、発芽不良等の生育障害を引き起こすため、土壌診断に基づき施肥量を調節する。						

エダマメ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (壤土、壇壤土)	4,500～ 8,000(セ トレイ育 苗)	350 ～ 700	基肥：播種前	3～5	15～20	5～10	(牛ふん堆 肥500) 基準：1 上限：2	石灰 100	基本的にマメ科は連作をしない。
			追肥	(2～3)		(3～5)			
			合 計	(5～8)	15～20	5～10 (8～15)			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pH6.0～6.5を目標に苦土石灰等を施肥する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 ウ 作型によって施肥窒素量を加減する。多い順から早生種>中生種>晩生種。 ウ 前作に野菜等を作付している場合は、土壌分析に基づき施肥N量を減らす。 また、転作1年目では基準量の2/3程度とする。 エ 茶豆・黒豆の場合は基肥窒素量を30%程度減肥する。 オ 追肥は早生種以外はよほど草勢が落ちていない場合実施しないが、実施する場合は開花 始め頃遅れないように施肥する。									

ソラマメ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土、壇 壤土)	2,000 ～ 2,300	1,500	基肥：定植前	7～12	20	14	(牛ふん堆 肥1,500) 基準：3 上限：	石灰 80～160	
			追肥：3月中旬	2		2			
			追肥：5月上旬	2		2			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。 イ 酸性土壌では生育が劣るので、土壌酸度に注意し、石灰、リン酸等で土壌改良を行う。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 エ 追肥は、3月中旬と5月上旬の2回、2.0kg/10a施用する。 オ 局所施肥法を行う。			ア 完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。						

スイートコーン

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土、壇 壤土)	4,500	1,200	基肥：は種2週間前	20～24	20～24	20～24	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：	石灰 100～120	砂質土壌では、基肥を20%程度増量 する。
			追肥：本葉5,6枚頃	3～5		3～5			
			追肥：出穂前	3～5		3～5			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 ウ 砂質土では基肥量を20%程度増量する。 エ 局所施肥法を行う。 オ 追肥は2回に分けて行う。			ア 完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。						

キャベツ

＜夏秋どり栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土、埴壤土)	5,000	4,000	基肥：定植前	19	20~25	15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100 FTE 4	
			追肥：結球開始期まで	6	2	6			
			合 計	25	22~27	21			
環境保全型施肥のポイント			＜堆肥等施用のポイント＞						
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。</p> <p>イ 土壌pHを5.5～6.5を目標に矯正する。</p> <p>ウ 基肥は有機質肥料又は肥効調節型肥料主体に施用する。</p> <p>エ 追肥には速効性肥料を用い、2回に分けて行う。最終追肥は結球開始期までに行う。</p> <p>オ 連作ほ場では、リン酸資材の過剰施用に注意する。</p>									

＜秋冬どり栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土、埴壤土)	5,000	4,000	基肥：7月下旬	15	25	15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100 FTE 4	定植時期は8月上旬を想定している。
			追肥：8月下旬	3	1	3			
			追肥：9月上旬	3	1	3			
環境保全型施肥のポイント			合 計	21	27	21	＜堆肥等施用のポイント＞		
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。</p> <p>イ 土壌pHを5.5～6.5を目標に矯正する。</p> <p>ウ 元肥は有機質肥料又は肥効調節型肥料主体に施用する。</p> <p>エ 追肥には速効性肥料を用い、2回に分けて行う。最終追肥は結球開始期までに行う。</p> <p>オ 連作ほ場では、リン酸資材の過剰施用に注意する。</p>									

ハクサイ

＜ 秋冬どり栽培 ＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土・埴壤土)	2,600	4,500	基肥：定植前	15	20	15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100 FTE 4	
			追肥：結球前	5	—	5			
			合 計	20	20	20			
環境保全型施肥のポイント			＜堆肥等施用のポイント＞						
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。</p> <p>イ 土壌pH5.5～6.0を目標に苦土石灰等を施用する。</p> <p>ウ 追肥は速効性肥料を用い、結球直前の本葉10～12枚時に施用する。</p> <p>エ ホウ素欠乏が発生しやすいため、微量要素資材FTEを施用する。</p>									

ブロッコリー

＜初夏どり栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土埴壤土)	4,000	1,200	基肥：定植前	17	22	17	(牛ふん堆肥2,000) 基準：4 上限：—	石灰 60	黒ボク土等、リン酸吸収係数の高い土壌で栽培する際には、リン酸の施肥量を多くする。
			追肥：定植後20～30日	3	4	3			
			合 計	20	26	20			
環境保全型施肥のポイント			＜堆肥等施用のポイント＞						
<p>ア 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して適正な施肥を行う。</p> <p>イ 土壌pHを5.5～6.0に矯正する。</p> <p>ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。</p> <p>エ 初期成育が旺盛の場合は、追肥を控える。</p> <p>オ 連作は避け、緑肥作物などと輪作する。</p>									

＜秋冬どり栽培＞

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a		kg/10a	
全域 (砂壤土、埴壤土)	4,000	1,000	基肥：定植2週間前	15	20	12～15	(牛ふん堆肥2,000) 基準：4 上限：—	石灰 60	連作は避け、緑肥作物などと輪作する。
			追肥：定植後20日後	3	1	3			
			合 計	18	21	15～18			
環境保全型施肥のポイント			＜堆肥等施用のポイント＞						
<p>ア 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して適正な施肥を行う。</p> <p>イ 土壌pHを5.5～6.0に矯正する。</p> <p>ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。</p> <p>エ 初期成育が旺盛の場合は、追肥を控える。</p>									

ダイコン

＜夏どり栽培＞

対象地域 (土壌)	栽植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土、埴壌土)	6,000	4,500	基肥：播種2週間前	8～12	15～20	10～15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100		
			追肥：間引き後	3	3	3				
合 計				11～15	15～20	13～18				
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞			
ア 土壌pH6.0～6.5を目標に苦土石灰等を施肥する。 イ 連作障害回避のため、エン麦・ライ麦等の緑肥用麦を10a当り10～15kgを播種し、次作では施肥量を窒素成分で3kg程度減肥する。なお、緑肥を連用する際は、土壌分析結果に応じて適正なリン酸の補給を行う。 ウ 播種時期に合わせ、施肥窒素量を加減し、7月下旬収穫までのものは、追肥しない。 エ 連作地や砂質土壌でホウ素の欠乏が発生しやすい場合は、ホウ素入り資材 (FTE等) を投入する。							ア 未熟堆肥は岐根等の原因になるので、必ず完熟堆肥を使用する。 イ 堆肥を施用する場合は、1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。			

＜秋冬どり栽培＞

対象地域 (土壌)	栽植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土、埴壌土)	6,000	5,000	基肥：播種2週間前	14	15～20	14	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰100		
			追肥：間引き後	3	3	3				
合 計				17	15～20	17				
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞			
ア 土壌pH6.0～6.5を目標に苦土石灰等を施肥する。 イ 連作障害回避のため、エン麦・ライ麦等の緑肥用麦を10a当り10～15kgを播種し、次作では施肥量を窒素成分で3kg程度減肥する。なお、緑肥を連用する際は、土壌分析結果に応じて適正なリン酸の補給を行う。 ウ 播種時期に合わせ、施肥窒素量を加減する。 エ 連作地や砂質土壌でホウ素の欠乏が発生しやすい場合は、ホウ素入り資材 (FTE等) を投入する。							ア 未熟堆肥は岐根等の原因になるので、必ず完熟堆肥を使用する。 イ 堆肥を施用する場合は、1ヶ月以上前に完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。			

ハウレンソウ

＜ハウス夏秋どり栽培＞

対象地域 (土壌)	播種量	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	g/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土・埴壌土)	3～4	1,000	基肥：播種前	10～15	12～15	10～15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：	石灰 100		
			合 計	10～15	12～15	10～15				
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞			
ア 土壌pH6.5程度に矯正する。 イ 連作する場合は前作の半量とし、4作目以降は無肥料とする。							土壌分析を行い、必要な場合は施用する。堆肥の多量施用は、生育不良を及ぼす場合も見られる。			

＜ハウス秋冬どり栽培＞

対象地域 (土壌)	播種量	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	g/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土、埴壌土)	3～4	1,200 ～ 1,500	基肥：播種前	10～15	12～15	10～15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：	石灰 100	追肥を行う場合は、葉色を見ながら早めに行う。	
			追肥：	(0～5)	(0～5)	(0～5)				
合 計				10～15 (10～20)	12～15	10～15 (10～20)				
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞			
ア 土壌pHをpH6.5程度に矯正する。 イ 塩類集積、リン酸過剰のほ場では、土壌分析による施肥設計を行う。 ウ 追肥を行う場合は、葉色を見ながら早めに行う。 エ 前作の残肥により、施肥量を調整する。 オ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。							完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。			

＜露地栽培＞

対象地域 (土壌)	播種量	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	g/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土・埴壌土)	3～4	1,200	基肥：播種前	15～20	15～20	15～20	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：	石灰 100		
			合 計	15～20	15～20	15～20				
環境保全型施肥のポイント							＜堆肥等施用のポイント＞			
酸性土壌では生育不良となるので、作付前に土壌pHを測定し必要量の石灰資材を投入し、pH6.5～7.0に矯正すること。							播種30日前までに完熟堆肥を施用すること。			

コ マ ツ ナ

< ハウス栽培 >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	リットル/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壌土・ 植壌土)	播種量1 ~2リットル	1,200	基肥：定植前	10	10	10	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100		
			追肥：-----							
			合 計	10	10	10				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。特にトマト、キュウリ等の後作の場合は、土壌診断結果に応じた施肥量とする。</p> <p>イ 土壌pH5.5~6.5を目標に苦土石灰等を施用する。</p> <p>ウ 連作や夏播き(7~8月)の場合は、3~5割程度施肥量を減らす。</p>										

ネ ギ

< 夏どり栽培 >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域	30,000	3,500	基肥：定植時	15	12	15	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100		
			追肥：土寄せ時	12	9	12				
			合 計	27	21	27				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
<p>ア CECの低いほ場については、緩効性肥料又は有機質資料により肥料切れを防ぐ。</p> <p>イ 土壌診断に基づき、適正に施用する。</p> <p>ウ 土壌pHを6.0~6.5程度に矯正する。</p> <p>エ 基肥のうち、石灰は定植2週間前に全面散布する。</p> <p>オ ネギは肥料あたりしやすいので、根に直接肥料が触れないように注意する。</p> <p>カ 追肥は土寄せ(3回)する直前に植え溝に施用する。</p>										

< 秋冬どり栽培 >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域	30,000	4,000	基肥：定植時	16	12	16	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100		
			追肥：土寄せ時	16	12	16				
			合 計	32	24	32				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
<p>ア CECの低いほ場については、緩効性肥料又は有機質肥料により肥料切れを防ぐ。</p> <p>イ リン酸については、土壌診断に基づき適正に施用する。</p> <p>ウ 土壌pHを6.0~6.5程度に矯正する。</p> <p>エ 基肥のうち、石灰は定植2間前に全面散布する。</p> <p>オ ネギは肥料あたりしやすいので、根に直接肥料が触れないように注意する。</p> <p>カ 追肥は土寄せ(4回)する直前に植え溝に施用する。</p>										

タ マ ネ ギ

< 秋まき >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
(砂壌土・植 壌土)	25,000	5,000	基肥：定植前	18	24	14	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2	石灰 100	浜通りにおける施肥量	
			追肥：2~4月(りん茎 肥大初期まで)	6	2	6				
			合 計	24	26	20				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。</p> <p>イ 土壌pH6.0~6.5を目標に苦土石灰等を施用する。</p> <p>ウ 追肥には速効性肥料を用い、数回に分けて施用する。</p> <p>エ 肥大中期以降の追肥は、腐敗性病害の発生や貯蔵性の悪化を招くため行わない。</p>										

< 春まき >

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
(砂壌土・植 壌土)	25,000	5,000	基肥：定植前	15	30	15	(牛ふん堆 肥1,000) 基準：2	石灰 100	浜通りにおける施肥量	
			追肥：-----							
			合 計	15	30	15				
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>			
<p>ア 土壌診断に基づき施肥量を決定する。</p> <p>イ 土壌pH6.0~6.5を目標に苦土石灰等を施用する。</p> <p>ウ 生育後半に窒素やリン酸が過剰だと腐敗性病害を多発させるため、追肥は行わない。</p>										

ニラ

<夏どり栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 t/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域	6,000	4,000	1年目	基肥 5月下旬 追肥 9~10月	26~28 16~20	38~41 6~7	17~19 12~14	1年目、 2年目共通 (牛ふん堆 肥1,000) 基準: 2 上限: 4	石灰 1年目: 200 2年目: 100	
			2年目	基肥 収穫終了 追肥 3~4月	8~9 12~13	6~7 9~10	7~8 10~11			
			計	42~48 20~22	44~48 15~17	29~33 17~19				
			合計	62~70	59~65	46~52				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント> ア 施肥量は土壌分析の結果に基づいて調節し、肥効調節型肥料や有機質肥料を用い、過剰施肥を避ける。 イ 物理性や腐植量において課題のある場合は、完熟堆肥や土壌改良資材を適正に投入し、深耕や排水性を確保するとともに、物理性・化学性及び生物性を改善し、土づくりに努める。 ア 土壌診断の結果に基づいて、堆肥の施用量を調節する。 イ 必ず、完熟堆肥を施用し、深耕(30cm以上)すること。 ウ 堆肥や有機質肥料を毎年必要以上に施用すると、塩類集積と塩基バランスの不均衡の原因となる。							

<秋冬どり栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 t/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (壤土)	8,000	3,000	1年目	基肥 定植前 追肥 8月	18~20 16~20	24~26 12~15	15~17 16~19	1年目、2年 目共通 (牛ふん堆 肥1,000) 基準: 2 上限: 4	石灰 1年目: 200 2年目: 100	
			2年目	基肥 除草除去 追肥 7~10月	10~12 14~16	8~10 12~14	8~10 12~14			
			計	34~40 24~28	36~41 20~24	31~36 20~24				
			合計	58~68	56~65	51~60				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント> ア 施肥量は土壌分析の結果に基づいて調節し、肥効調節型肥料や有機質肥料を用い、過剰施肥を避ける。 イ 物理性や腐植量において課題のある場合は、完熟堆肥や土壌改良資材を適正に投入し、深耕や排水性を確保するとともに、物理性・化学性及び生物性を改善し、土づくりに努める。 ア 土壌診断の結果に基づいて、堆肥の施用量を調節する。 イ 必ず、完熟堆肥を施用し、深耕(30cm以上)すること。 ウ 堆肥や有機質肥料を毎年必要以上に施用すると、塩類集積と塩基バランスの不均衡の原因となる。							

シュンギク

<抜きとり栽培(露地)>

対象地域 (土壌)	播種量	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	kg/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壤土、埴壤土)	3~5	2,000	1年目	基肥: 播種2週間前 追肥: 播種20日後	16 4	12 2	13 3	(牛ふん堆 肥1,000) 基準: 2 上限:	石灰 100~120	
			計	20	14	16				
			合計	20	14	16				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント> ア 酸性には弱いので土壌pHを6.0~6.5に矯正する。 イ 肥効調節型肥料の施用する。 ウ 有機質肥料を施用する。 <堆肥等施用のポイント> 完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。							

<摘みとり栽培(ハウス)>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考	
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a				
全域 (砂壤土、埴壤土)	24,000	4,000	1年目	基肥: 定植2週間前 追肥: 定植4週間後以降	20 10	15 5	15 10	(牛ふん堆 肥1,000) 基準: 2 上限:	石灰 100~120	追肥は窒素成分で2~3kg程度に分けて20~25日間隔で施用する。
			計	30	20	25				
			合計	30	20	25				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント> ア 酸性には弱いので土壌pHを6.0~6.5に矯正する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 ウ 追肥は、窒素成分で3~4kg/10aずつ分けて施用する。 エ 施設土壌では、リン酸、カリ過剰土壌が多いので、土壌診断結果に基づき適正に施用する。 <堆肥等施用のポイント> 完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。							

レタス

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土埴壤土)	6,500	2,300	1年目	基肥: 定植2週間前	14~17	24~26	14~17	石灰100	黒ボク土等、リン酸吸収係数の高い土壌で栽培する際には、リン酸の施肥量を多くする。 基準: 4 上限:
			計	14~17	24~26	14~17			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント> ア 基肥の施用量は、土壌診断結果を活用して適正な施肥を行う。 イ 土壌pHを6.0~6.5に矯正する。 ウ 生育促進、品質向上、肥効向上のためポリマルチを使う。 エ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 オ 局所施肥を行う。 <堆肥等施用のポイント> 堆肥を施用する際には、完熟堆肥を用い、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。						

根 ミ ツ バ

対象地域 (土壌)	播種量 %/10a	目標 収量 kg/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (壇壊土、砂壊土)	3~4	1,500	基肥: 播種後、2ヶ月頃 追肥: (8月上旬) 合計	10 2 12	13 2 15	13 2 15	(牛ふん堆肥1,000) 基準: 2 上限: 4		
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>		
ア 土壌pHを6.0~6.5に矯正する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 ウ 追肥は、遅くならないように播種後、2ヶ月頃目安に行う。8月上旬以降は行わない。							播種後、1ヶ月前までには施用し、土を良くなじませておく。		

アスパラガス

対象地域 (土壌)	栽培 様式 本/10a	目標 収量 kg/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (壇壊土、壊土)	1,600	500	1年 基肥:4月下旬 追肥:7月下旬~ 合計 2年 基肥:5月上旬 追肥:6月中旬~ 合計 3年 基肥:6月上旬 追肥:7月中旬~ 合計	28 6 34 25 20 45 25 25 50	36 2 38 30 5 35 6 36	25 6 31 25 15 40 25 18 43	(牛ふん堆肥2,000) 基準: 4 上限: 5	石灰 100~300	・1年目の基肥は全層施肥とする ・2年目以降の春どりは前年度の生育、病害の発生、収穫茎径や収穫量を考慮して収穫を終了し、立茎を開始する。
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>		
ア 定植初年目に土壌pH6.0~6.5に矯正する。 イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 エ 永年生作物のため、植え付け時に下層まで十分な土壌改良を行う。 オ 春どりが終了後はただちに有機質などの緩効性肥料を中心とした夏肥を施用し、株元へ土寄せを行う。 カ 追肥は夏芽萌芽始期より、速効性の肥料を2週間間隔で窒素成分2~3kg/10aを目安に施用する。							ア 肥料・土壌改良の両方に効果の高い家畜ふんモミガラ堆肥などを施用し、地力増進に努める。 イ 土壌分析を行い、必要量の把握を行う。過剰な場合は施肥量を減らすようにする。また、堆肥を基準量より多く入れる場合は基肥量を減肥する。		

<露地二期どり栽培>

対象地域 (土壌)	栽培 様式 本/10a	目標 収量 kg/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (壇壊土、壊土)	1,600	800	1年 基肥:4月下旬 追肥:7月下旬~ 合計 2年 基肥:5月上旬 追肥:6月中旬~ 合計 3年 基肥:6月上旬 追肥:7月中旬~ 合計	28 6 34 25 20 45 28 29 57	36 2 38 30 5 35 30 7 37	25 6 31 25 15 40 25 20 45	(牛ふん堆肥4,000) 基準: 8 上限: 10	石灰 100~300	・1年目の基肥は全層施肥とする。 ・2年目以降の春どりは前年度の生育、病害の発生、収穫茎径や収穫量を考慮して収穫を終了し、立茎を開始する。 <収穫期間の目安> 二年株 5~10日間 三年株 15~20日間 四年株 30~40日間
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>		
ア 定植初年目に土壌pH6.0~6.5に矯正する。 イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 エ 永年生作物のため、植え付け時に下層まで十分な土壌改良を行う。 オ 春どりが終了後はただちに有機質などの緩効性肥料を中心とした夏肥を施用し、株元へ土寄せを行う。 カ 追肥は夏芽萌芽始期より、速効性の肥料を2週間間隔で窒素成分2~3kg/10aを目安に施用する。							ア 肥料・土壌改良の両方に効果の高い家畜ふんモミガラ堆肥などを施用し、地力増進に努める。 イ 土壌分析を行い、必要量の把握を行う。過剰な場合は施肥量を減らすようにする。また、堆肥を基準量より多く入れる場合は基肥量を減肥する。		

<ハウス二期どり栽培>

対象地域 (土壌)	栽培 様式 本/10a	目標 収量 kg/10a	施用時期	窒素 kg/10a	リン酸 kg/10a	カリ kg/10a	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
全城 (壇壊土、壊土)	1,600	1,200	1年 基肥:4月下旬 追肥:7月下旬~ 合計 2年 基肥:5月上旬 追肥:6月中旬~ 合計 3年 基肥:6月上旬 追肥:7月中旬~ 合計	28 6 34 25 20 45 30 35 65	36 2 38 30 5 35 32 9 41	25 6 31 25 15 40 28 25 53	(牛ふん堆肥4,000) 基準: 8 上限: 10	石灰 100~300	・1年目の基肥は全層施肥とする。 ・2年目以降の春どりは前年度の生育、病害の発生、収穫茎径や収穫量を考慮して収穫を終了し、立茎を開始する。 <収穫期間の目安> 二年株 5~10日間 三年株 15~20日間 四年株 30~40日間
環境保全型施肥のポイント							<堆肥等施用のポイント>		
ア 定植初年目に土壌pH6.0~6.5に矯正する。 イ 土壌診断結果に基づき、適正量の施肥とする。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 エ 永年生作物のため、植え付け時に下層まで十分な土壌改良を行う。 オ 春どりが終了後はただちに有機質などの緩効性肥料を中心とした夏肥を施用し、株元へ土寄せを行う。 カ 追肥は夏芽萌芽始期より、速効性の肥料を2週間間隔で窒素成分2~3kg/10aを目安に施用する。また、液肥の場合は1週間~10日の間隔で、窒素成分で1~2kg/10aを目安に施肥を行う。							ア 肥料・土壌改良の両方に効果の高い家畜ふんモミガラ堆肥などを施用し、地力増進に努める。 イ 土壌分析を行い、必要量の把握を行う。過剰な場合は施肥量を減らすようにする。また、堆肥を基準量より多く入れる場合は基肥量を減肥する。		

ウ ド

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土、埴壤土)	1,200 ～ 1,800	1,200	基肥：定植2週間前	12	20	11	(牛ふん堆肥1,500) 基準：3 上限：	石灰 100～150	
	追肥：6月中旬		4	1	2				
	追肥：7月上旬～中旬		4	1	2				
	合 計		20	22	15				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHを5.5～6.5に矯正する。 イ 土壌病害対策、肥料吸収の面から連作は避け、緑肥作物などと輪作する。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。			完熟堆肥を施用し、ほ場全面にムラ無く、均一に散布する。						

ヤマノイモ (ナガイモ)

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (砂壤土)	4,000 (クレーパーパイプ使用)	2,500 ～ 3,000	基肥：定植前	10	20～25	10	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 100	・長形種「長芋」の場合。 ・クレーパーパイプ活用による長芋生産。
	追肥：6月下旬～7月上旬	10	10	10					
	追肥：7月下旬～8月上旬	10	10	10					
	合 計	30	20～25	30					
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 イ 生育初期はリン酸を効かす施肥が重要で、基肥においては窒素成分20%の減肥も可能。 ウ 追肥は、植え付け後60日を目安に行う。2回目の追肥は、新しい形成肥大期(開花時期)に行う。 エ 局所施肥法を行う。			良質の堆肥の使用。						

バレিশヨ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土、砂壤土)	4,700 ～ 6,000	3,000	基肥：植付前	10	16～18	12～15	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：4	石灰 80	
	追肥：培土時		6	6	6				
	合 計		16	16～18	18～21				
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pH5.5～6.5を目標に矯正する。石灰資材の過剰な施用は土壌pHを上昇させ、そうか病の発生を助長するので注意する。 イ 土壌診断に基づき施肥量を決定する。 ウ 生育速度が速いので、基肥は速効性肥料を使用する。 エ 培土(追肥)は、萌芽揃い期と開花1週間前頃の2回に分けて行う。 オ 野菜跡地など残存窒素が多い場合は、窒素施用量を2～3割減らす。			堆肥の肥料成分を考慮に入れて施肥量を決定する。						

オ オ バ

<夏秋栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土)	8,000	2,000	基肥：4月	17	10	10	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2		
			追肥：5月～9月	3	3	3			
			合 計	20	13	13			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施設栽培のオオバは1作の栽培期間が4～6ヶ月の長期に及ぶため、肥料切れせず、安定した肥効を持続し、均一な新葉を展葉させるための土壌環境の整備が重要である。 イ また一般に同一の施設で連続して栽培されるため、土壌の養分集積による生育障害の発生が見られる。このため、土壌診断に基づいた施肥を行い、深耕や排水性を確保するとともに、物理性・化学性及び生物性を改善し土づくりに努める。 ウ 施肥は、肥効調節型肥料や有機質肥料を使用する。 エ 局所施肥法を用い過剰施肥を避ける。			ア 土壌診断の結果に基づいて、堆肥の施用量を調整する。 イ 基準以上の堆肥を施用する場合は、必要に応じて基肥を減らす。						

<秋冬栽培>

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	本/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全域 (埴壤土)	8,000	1,600	基肥：9月	12	8	8	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2		
			追肥：11月～3月	3	2	2			
			合 計	15	10	10			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 施設栽培のオオバは1作の栽培期間が4～6ヶ月の長期に及ぶため、肥料切れせず、安定した肥効を持続し、均一な新葉を展葉させるための土壌環境の整備が重要である。 イ また一般に同一の施設で連続して栽培されるため、土壌の養分集積による生育障害の発生が見られる。このため、土壌診断に基づいた施肥を行い、深耕や排水性を確保するとともに、物理性・化学性及び生物性を改善し土づくりに努める。 ウ 施肥は、肥効調節型肥料や有機質肥料を使用する。 エ 局所施肥法を用い過剰施肥を避ける。			ア 土壌診断の結果に基づいて、堆肥の施用量を調整する。 イ 基準以上の堆肥を施用する場合は、必要に応じて基肥を減らす。						

葉ワサビ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	株/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全城 (壤土)	900	400	基肥：定植時(9月)	13	22	7	(牛ふん堆肥1,000) 基準：2 上限：		
			追肥：5月上旬(2年目)	5	6	4			
			追肥：9月上旬(2年目)	5	6	4			
			合計	23	34	15			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pH5.5～6.5を目標に矯正する。 イ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を用いる。 ウ 過剰施肥に注意している。			完熟堆肥を施用し、排水性、保水性の向上に努める。						

アサツキ

対象地域 (土壌)	定植 本数	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	球/10a	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
全城 (砂壤土、埴壤土)	ハウス 8,000	3,000	基肥：定植前	25	39	23	(牛ふん堆肥500) 基準：1 上限：2		
			追肥：萌芽前	13					
			追肥：萌芽後	6	2	6			
			合計	44	41	29			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 土壌pHを6.0～6.5に矯正する。 イ 基肥主体とし、9月下旬から追肥をしない。 ウ 肥効調節型肥料又は有機質肥料を施用する。 エ 1回目の追肥は、植付け10～15日後の萌芽前に、雑草防止を兼ねて(除草剤としての使用時期は植付け前でありこの記載は要検討のこと)石灰窒素60kg/10aを全面散布する。 オ 2回目の追肥は、1回目の追肥の15～20日後頃とする。			完熟堆肥を植え付け1ヶ月前までに施用し、土と十分になじませ、根張りを良くする。						

オタネニンジン (薬用ニンジン)

<1年生移植栽培及び直播栽培>

対象地域 (土壌)	栽培 様式	目標 収量	施用時期	窒素	リン酸	カリ	堆肥 (種類) N成分 kg/10a	その他 kg/10a	備 考
	(cm)	kg/10a		kg/10a	kg/10a	kg/10a			
会津 (沖積土・火山灰土)	条間 18～20 株間 12～14	800	基肥：-----	33～49	28～38	25～37	(稲わら堆肥4,000) 基準：4 上限：		・成分量は、5年生栽培の場合。 ・追肥は基本的に行わない。地力の低いほ場で肥料切れによる生育不良がみられる場合のみ追肥を行う。追肥量は、油かす0.4～0.9リットル/1m×1.8m(床面積) ・品種は、会津在来や県育成「かいしゅうさん」が利用されている。

			合計	33～49	28～38	25～37			
環境保全型施肥のポイント			<堆肥等施用のポイント>						
ア 窒素を含んだ化成肥料は一切用いず、窒素は油粕や植物由来の完熟堆肥を施用する。 イ 作付前に緑肥を作付けしてすき込んだり、稲わら(水田1ha分/10a)等の粗大有機物をすき込んだりして、土壌の物理性改善に力点をいたすづくりをしっかりと行う。 ウ 好適土壌pHは5.5～6.5である。			ア 作付時に土壌中に未熟な有機物が残らないよう早めに施用し、数回耕耘して、土壌中の有機物の腐熟促進を図る。 イ 未熟堆肥は、根の生育に悪影響を及ぼすので絶対に使用しない。						